

ANNUAL REPORT

2019.4 - 2020.3



認定 NPO 法人

JUON NETWORK

JUON NETWORKの創立

「阪神淡路大震災」・「木と森への感謝」・「ボランティア元年」

1998年4月に設立

JUON NETWORKは、大学生協と「人・自然・環境」に心を馳せる者たちによるネットワークから生まれました。

阪神淡路大震災

1995年に発生した阪神淡路大震災の際に、大学生協では兵庫に約240室の「仮設学生寮」を建設し、2年間運営しました。その学生寮の一部は、「間伐材」を使用したミニハウスでした。これは徳島県三好郡（当時）の行政や林業関係者から提供いただいたものであり、芦屋のテニスコートの上にカラフルな58棟の「村」が出現しました。

木と森への感謝

このミニハウス建設を契機に、大学生協と三好の方たちとの交流が始まり、それを通じて、木材が売れないために、森林の手入れが進まず、森林が荒廃の危機にあることを知ったのです。

同時に、森林には水源の涵養・災害防止・二酸化炭素の吸収など私たちの生活に密着した多面的機能があることも知りました。

ボランティア元年

阪神淡路大震災の際には、全国から学生をはじめとして多数のボランティアが駆けつけました。後に「ボランティア元年」と位置づけられる由縁です。この機運は一時的なものに留まらず、1998年施行の「特定非営利活動促進法」（NPO法）につながりました。

JUON NETWORKも、大学生協関係者と廃校を利用した施設運営推進者（埼玉神泉村・新潟佐渡・富山利賀村）、そして震災でつながった神戸・徳島三好の、志を同じくする者が、「協同」「共助」の社会を目指すことも目的に設立しました。



間伐材製ミニハウス



佐渡の鳥越文庫



設立総会（1998年徳島・池田町）

JUON NETWORKの名称の由来

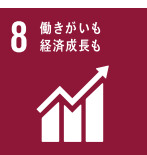
最後の棟梁と称された宮大工の故西岡常一さんの著書にある

「今になって、緑や、自然やゆうても……。ところが、このことにお釈迦様は気がついておられた。『樹恩』ということを読んでいるんですよ、ずっと大昔に。それは木がなければ人間は滅びてしまう。」

という文章から、『樹恩』（じゅおん）の語をいただき、また、都市と農山漁村の人々をネットワークで結んでいくとの意志を込めて、「JUON NETWORK」（樹恩ネットワーク）と命名しました。

JUON NETWORK と SDGs

JUON NETWORKの活動は、特に目標15「陸の豊かさを守ろう」に直結していますが、その他にも、森林の楽校・田畑の楽校・樹恩割り箸などの活動が、目標8「働きがいも経済成長も」、目標11「住み続けられるまちづくりを」、目標12「つくる責任つかう責任」、の目標にも貢献します。



JUON NETWORK 「ミッション・ビジョン・バリュー」

ミッション (JUON NETWORKが果たすべき社会的使命)

都市と農山漁村が支え合うネットワークを
森林などをめぐる体験・交流・応援の活動によってひろげ、
持続可能な社会を創造する。

ビジョン (JUON NETWORKがめざす社会)

- 1) 人が、自然（森林・田畑・河川・海）を持続的に活用できる社会。
- 2) 農山漁村が、都市とともに持続的に存在できる社会。
- 3) 若者が、人と自然、都市と農山漁村をつなぐ担い手として持続的に活躍できる社会。

バリュー (JUON NETWORKが大切にすること)

- 1) 樹木などの恩恵に感謝し、自然とのつながりを大切にする。
- 2) 農山漁村と都市の顔の見えるつながりを大切にする。
- 3) 若者の学びと成長を支え、世代間のつながりを大切にする。
- 4) NPO、協同組合、企業、学校、地域コミュニティ、行政などとのつながりを大切にする。

設立から 20 周年を迎えた JUON NETWORK は、新たに合意されたミッションのもとで、引き続き着実に歩みを進めることになりました。それが私たちの 2019 年度の取り組みでした。ここにお届けする ANNUAL REPORT を通じて、森林の楽校、田畑の楽校、樹恩割り箸など、幅広い領域について、活動の様子をご理解いただければ幸いです。

などと申し上げると、「同じパターンの繰り返しだね」と思われるかもしれませんが、多くの分野で具体的な達成目標を共有しながら頑張ったのも 2019 年度でした。残念ながら、悪天候に妨げられて目標に届かなかった取り組みもありました。他方で活動のシステムの充実を図るため、新たな仕組みを導入した面もあります。例えば、森林の楽校や田畑の楽校の現地での運営を支える非常勤現場職員制度がスタートしました。まずは 4 名の非常勤職員が活躍しています。新たな取り組みという意味では、間伐・間伐材利用推進ネットワークの事務局を担当したことも、JUON と多様な組織や地域とのつながりを深める役割を發揮してくれるでしょう。この点は特集ページをご覧ください。

皆さんご存知のとおり、2019 年度の最後の段階に深刻化した問題として、新型コロナウイルスの感染拡大があります。悪天候に加えて、感染防止が活動中止の理由になったのも 2019 年度の特徴です。過去形では語れません。2020 年度にどのように対処すべきかが問われているのです。新たなミッションに明記されているように、JUON の活動のベースには体験・交流・応援があります。現地での活動の再開に向けて尽力してまいりたいと思います。言うまでもなく、活動のフィールドとなる地域の安全の確保、そして参加される皆さんの安全の確保に十分に配慮する必要があります。しっかり相談させていただきたいと思います。

新型コロナウイルス問題に限りませんが、忌憚のないご意見をいただくことを含めて、JUON の活動への一層のご支援、ご協力のほどをお願い申し上げます。



会長 生源寺 眞一
(福島大学教授)

森林の保全・育成

森林は、木材の生産・国土の保全・地球温暖化防止など多面的な機能を有しています。その森林が今、危機に瀕しています。森林の現状を多くの人に知ってもらい、国産材の利用を促すことが、今求められています。

森づくり体験プログラム「森林の楽校」 もり がっこう

JUON NETWORKでは、日本の森林や林業、あるいは山村の現状を知らせ、森林を守ることの大切さを知ってもらうために、「森林の楽校」（もりのがっこう）を全国各地で開催しています。2019年度は全国の14ヶ所で、19回開催し、学生や若者を中心に、地元の方も含み375名が参加しました。

森林の楽校では、間伐・枝打ち・下草刈りなどの体験をし、併せて農山村の地元の方たちと交流をし、その現状を実感します。

「森林の楽校」の開催（2019年度）

「森林の楽校」の開催（2019年度）			参加者数
①白神山地	森林の楽校（秋田県藤里町）	1回	8名
②会津高原	森林の楽校（福島県南会津町）	1回	40名
③水源の森	自然ふれあい楽習（群馬県みなかみ町）	1回	44名
④霧の高原	森林の楽校（群馬県昭和村）	1回	18名
⑤神の泉	森林の楽校（埼玉県神川町）	2回	55名
⑥多摩の奥	森林の楽校（東京都奥多摩町）	1回	11名
⑦トキの島	森林の楽校（新潟県佐渡市）	1回	13名
⑧そばの里	森林の楽校（富山県南砺市）	2回	44名
⑨安曇野	森林の楽校（長野県安曇野市）	1回	21名
⑩風の谷	森林の楽校（岐阜県揖斐川町）	4回	52名
⑪キノコの森	森林の楽校（京都府亀岡市）	1回	21名
⑫清流の森	森林の楽校（兵庫県宍粟市）	1回	23名
⑬四国のへそ	森林の楽校（徳島県三好市）	1回	11名
⑭さぬきの森	森林の楽校（香川県さぬき市）	中止	
⑮四万十川	森林の楽校（高知県四万十市）	中止	
⑯つばきの里	森林の楽校（佐賀県鳥栖市・長崎県長崎市）	1回	14名
合計			19回 375名

参加者より



職場で写真やイラストを使って間伐の話をすることはありましたが、実際にやってみるのは初めてでした。伐る木の傾き具合や枝の量、周りの木などを見て切り込みを入れ、最後に思い通りの方向に倒れたときは爽快！今回は体験なので1～2本でしたが、山の手入れにはもっと多くの木を伐っていかねばならず、その大変さも実感しました。（会津高原 森林の楽校）



大鎌やノコギリ、チェーンソーを使った林業体験を通して、チェーンソーの予想以上の重さに驚かされました。また、農業体験ではサツマイモの掘り方や日陰干しなど自分の知らない知識を学ぶことができました。昼食や夕食の交流会ではバーベキューなどの美味しい食べ物をいただきつつ、他のボランティア参加者の方のお話も聞くことができました。（霧の高原 森林の楽校）



伐り方を教えてもらい、間伐作業を行いました。少しずつゆっくりと音を立てて倒れていく様子は圧巻でした！昨年設置していた鳥の巣箱に巣立った後が見られ、今年も参加者みんなで巣箱を作って設置しました。来年が楽しみになりました！普段触れることができない貴重な体験や話が盛りだくさんでした。（つばきの里 森林の楽校）



森林の保全・育成

森林保全を実際に形あるものにするためには、一定のフィールドにおける継続的な取り組みと、それに自主的に関わり、主体的に森づくりを担う人材の育成が不可欠です。

体験からリーダーへ 森づくりを担う人材の育成

森林ボランティア青年リーダー養成講座

「森林の楽校」などで得た森林保全や森林作業への関心をいっそう育み、作業スキルの向上を図るために、東京、関西、四国にて、それぞれ年1回「森林ボランティア青年リーダー養成講座」を実施してきました。

in 東京



東京では第21期となり、11月から翌年2月にかけて6日間で実施し、10名の参加がありました。

in 関西



関西（京都・兵庫）では第13期となり、9月から翌年1月にかけて6日間で実施し、2名の参加がありました。

in 四国



四国（徳島・香川）では第3期となり、10月から翌年1月にかけて5日間で実施し、4名の参加がありました。

資格検定制度「エコサーバー」

JUON NETWORK では、環境や自然体験活動を主な内容とした資格検定制度である「エコサーバー」を実施しています。サポーター、リーダー、シニアリーダー、コーディネーターがあり、養成講座などを実施しています。

CONE（自然体験活動推進協議会）に参加し、森林ボランティア青年リーダー養成講座と連動させています。



定期的な森づくりに取り組む「ヤングジュオン」

「森林ボランティア青年リーダー養成講座」の卒業生を中心に「東京ヤングジュオン」、「関西ヤングジュオン」、「四国ヤングジュオン」が、継続して森づくりに取り組んでいます。

「東京ヤングジュオン」では、東京都奥多摩町の「鳩ノ巣フィールド」を拠点に、月1回の定例活動を続けており、「多摩の奥 森林の楽校」の運営も行っています。また、他団体と共に「多摩の森・大自然塾 鳩ノ巣フィールド」へも参加しています。なお、「地域密着チーム」「間伐材活用チーム」「都市で伝えるチーム」などチームに分かれた有志活動も行っています。

「関西ヤングジュオン」では、「清流の森 森林の楽校」と「キノコの森 森林の楽校」の運営を行っています。また、月1回の「青春自然塾」や「中坪・里山整備」などに参加しています。有志活動として、中坪の「高田ハウス」を活用した地域活動を10数回行っています。

「四国ヤングジュオン」では、「さぬきの森 森林の楽校」の運営を行いました。





森林の保全・育成

JUON NETWORK が「森林の楽校」やヤングジュオンの活動などで積み上げてきたノウハウを、企業や生協の森づくり、所属する職員へのボランティア活動の場の提供などに活かしています。

企業の森づくり活動への協力

太陽生命保険株式会社

栃木県那須塩原市にある「太陽生命の森林」にて、7月・11月の2回、森づくり活動の協力をしました。また、5月には「森林教室」のお手伝いもしました。

株式会社アールシーコア（BESSフォレストクラブ）

東京都青梅市の「青梅の森」での活動を6月・9月・11月に支援しました。

NECグループ労働組合連合会

茨城県土浦市の「穴塚の里山」にて4月に、青梅市の「青梅の森」にて10月に、兵庫県川西市の「ゆめほたる」にて11月に、森づくり活動の受け入れをしました。

公益財団法人 三菱UFJ環境財団

1999年から、群馬県みなかみ町で、「森林の楽校」としては2番目に古い「水源の森 自然ふれあい楽習」を共催しています。2019年は、9月に開催し44名の参加がありました。

株式会社チョイスホテルズジャパン（コンフォートホテル）

2017年度より支援をいただいております。12月に横浜市の「小机城址市民の森」にて、社員の森林体験に協力しました。

生協の森づくり活動への協力

コープみらい



コープみらいが所有する「秩父の森」は07年度より協力しており、19年度はイベントや企画、ボランティア体験講座などの活動を、30回近く行いました。

コープみらい八街の森



コープみらいが所有する千葉県「八街の森」の調査を行い、その保全活動を実施、19年度は2回行いました。

パルシステム東京



パルシステム東京が所有する「いなぎめぐみの里山」での、里山整備に協力し、19年度は4月、6月、10月、12月、2月の組合員参加のイベントを実施しました。また、「里山なかまプレ体験会」を10月に行いました。

多摩の森・大自然塾「鳩ノ巣フィールド」

JUON NETWORK が事務局を担当し、コープみらい・かんぼ生命の協力の下、毎月第3日曜日に開催しています。19年度は、のべ333名の参加がありました。



森林の保全・育成

今、日本の森林は資源としての木が育ち、収穫期を迎えています。この資源を活用し、日本の至る所で国産材を使用することが必要です。それにより、林業が栄え、地方や山村に産業が生まれ、地方の創生につながります。

間伐と国産材利用の大切さを伝える「樹恩割り箸」

森林の保全には、定期的な間伐などの手入れが必要であり、間伐された木が販売され林業として成り立つことも不可欠です。間伐材・国産材の樹恩割り箸は、それらのことを、学生をはじめ多くの方たちに伝えるために生まれました。2019年度は、合計で1,193万膳、利用されました。

全国の大学生協の食堂で利用されています

樹恩割り箸は、1998年開始時は116万膳の生産でしたが、その後利用が順調に増え、2016年度には1400万膳となりました。その大半は大学生協（74大学生協）が占めています。

大学生協では、食堂での利用のほか、数多く販売される弁当にも付けられ、これからの時代を担う多くの学生たちに間伐の必要性と国産材の利用の大切さを伝えていきます。

緑提灯店でも樹恩割り箸を利用しています

緑提灯店は、お店の全メニューのうちカロリーベースで50%以上の国産食材を使用している「地場産品を応援しているお店」で、そのシンボルとして緑の提灯を掲げています。これらのお店でも国産材を使用している樹恩割り箸への関心が高まっています。

樹恩割り箸を使用している緑提灯店（2019年度）

※北海道東北地域

ラーメン札幌一粒庵

※関東甲信越地域

片品村振興公社かたしなや
居酒屋山路

※東海北陸地域

レストラン樹庵

※関西中国地域

農家レストラン西野

※九州地域

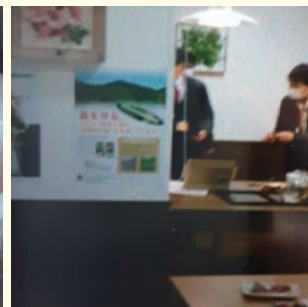
麺や那珂川

農林水産省の食堂「手しごとや・咲くら」で樹恩割り箸を採用

農林水産省内で、入館許可の必要なしに誰でも利用できる、北別館1階の食堂「手しごとや・咲くら」で、今年より樹恩割り箸を採用することとなりました。

「手しごとや・咲くら」は、基本的には国産のものをなるべく使い、また東日本大震災や熊本地震以降は被災地支援で、福島や熊本、茨城の食材も積極的に取り入れています。農林水産省に、あるいはお近くに行ったときは、ぜひお寄りください。

2月18日に行われたパーティでは、完封箸も使用されていました。樹恩割り箸のポスターも張られています。



樹恩割り箸は、すべて福祉施設で製造されています

障害者にとって、仕事を持って働くことが生きがいにつながります。樹恩割り箸は、全国5ヶ所の知的障害を持つ方が利用する福祉施設で生産されています。箸の生産に携わることにより、給与のアップや日々の生活の中でのモチベーションにつながっています。

◎樹恩割り箸を生産している福祉施設

あたご共同作業所（福島県南会津町）、エルシーヌ藤ヶ丘（群馬県桐生市）
江南愛の家（埼玉県熊谷市）、山の子の家（東京都日の出町）
セルフ箸蔵（徳島県三好市）

障害者が森や環境を守る手伝い出来る

「障害者は何かをしようとする時に支援が必要な場合があるが、この事業では障害者が森や環境を守る手伝い出来る。」これが、樹恩割り箸を生産する障害者や職員の拠り所です。従事する障害者は、日々自分の仕事に誇りを持ってその生産に取り組んでいます。

林業関係者の「森林を守りたい」「地域を活性化したい」という気持ちと、福祉関係者の「福祉への関心を深めてもらいたい」「障害者に誇りをもって仕事をしてもらいたい」、この思いが林業と福祉の連携という、先進的な取り組みとなりました。



JUON NETWORK は設立当初より、農山漁村と都市を結び、環境の保全改良・地方文化の発掘と普及・都市住民の余暇活動の提供・過疎過密の問題の解決に取り組み、自然環境の保全・過疎地への対応・発掘などの活動を、ボランティアによる全国ネットワークで進めています。

寝食を共にして農業を応援「田畑の楽校」^{はたけ がっこう}

農村において高齢化や過疎化が進む中で、繁忙期などで一時的に農作業を手伝ってもらえる人手は大変助かり、精神的にも励みとなります。JUON NETWORKでは、泊りがけでの援農活動である「田畑の楽校」（はたけのがっこう）を全国4ヶ所で進めています。

ぶどうの丘 田畑の楽校（山梨県山梨市牧丘地区）

ぶどうの産地である山梨の風土に接しながら、澤登農園でのボランティア活動を開始してから10年以上が過ぎました。19年度は、年5回（参加者のべ79名）の田畑の楽校のほかに、有志の自主的な活動が年間で53日行われました。ボランティアをきっかけに山梨へと移住して、これまでに4世帯がブドウ農家となっています。



熊野の棚田 田畑の楽校（和歌山県那智勝浦町色川地区）

今や人口の約4割が新規定住者という全国でもめずらしい地域です。「農業」「田舎暮らし」という言葉がちょっと気になるという方に好評です。田植え、草取り、稲刈り、わらまき、畦削ぎなど棚田でのお米づくり体験ができる2泊3日のツアーです。19年度は、年4回（参加者のべ37名）開催しました。



南伊勢のみかん 田畑の楽校（三重県南伊勢町）

三重県の南部、伊勢志摩国立公園の南玄関に位置し奥志摩として親しまれる南伊勢町は、伊勢神宮の自然林から続く豊かな森、山から海まで多彩な自然と、農村と漁村文化が混在する独自の文化が特色です。この南伊勢で、「南伊勢のみかん 田畑の楽校」が開始されました。2019年の9月・11月・12月と20年の2月に開催し、のべ24名の参加がありました。



北信りんごの里 田畑の楽校（長野県山ノ内町）

北信五岳（飯綱山・戸隠山・黒姫山・妙高山・斑尾山）を一望できるりんご園、坂口農園をフィールドに、1泊2日（宿泊は「ラボランドくろひめ」/信濃町）で、花摘み作業（5月）→ 摘果作業（6月）→ 葉摘み作業（9月）→ 収穫・梱包作業（11月）の年4回行い、参加者はのべ42名となりました。人手不足が顕著な状況で、大変感謝されました。



廃校を活用したセミナーハウスなど

JUON NETWORKの設立にあたっては、廃校を活用した施設の設定や運営をしていた方たちの大きな尽力がありました。その施設のある地域は、現在でも森林の楽校を開催する拠点となっているところが少なくありません。

- | | |
|------------------|---------|
| ①「白神ぶなっこ教室」 | 秋田県藤里町 |
| ②「鳥越文庫」 | 新潟県佐渡市 |
| ③「Starforest 利賀」 | 富山県南砺市 |
| ④「ラーニングアーバー横蔵」 | 岐阜県揖斐川町 |
| ⑤「四万十楽舎」 | 高知県四万十市 |



都市と農山漁村を結ぶ

JUON NETWORKの全国ネットワークは、6つに区別された「地域ブロック」によって構成されています。各ブロックでは「世話人会」を中心に、森林の楽校やブロック独自の活動、会員相互の交流などを進めています。

各「地域ブロック」の活動

●北海道東北地域ブロック

毎年秋に行われる「会津高原 森林の楽校」（福島）を中心に活動しており、地元の方との交流や、樹恩割り箸を製造している「あたご共同作業所」の見学も行っています。

●関東甲信越地域ブロック

19年度は、映画『武蔵野』の上映会や「森と酒のがっこう」を2回行いました。また、新年会で会員相互の懇親を深めました。

●東海北陸地域ブロック

「風の谷 森林の楽校」（岐阜）と「そばの里 森林の楽校」（富山）を中心に活動しています。19年度は8月に「会員の集い」を開催しました。

●関西中国地域ブロック

「キノコの森 森林の楽校」（京都）と「清流の森 森林の楽校」（兵庫）を開催し、日常的に中坪地区（兵庫・宍粟市）での活動を進め、「町並みと民家を訪ねる会」なども行っています。

●四国地域ブロック

徳島では、「森林の楽校」と「樹恩割り箸」の発祥の地として、現在もこの2つを中心に活動しています。香川では、森林の楽校のほか、「香川会」として独自の活動を進めており、19年度も「森林ボランティア青年リーダー養成講座」を行いました。

●九州地域ブロック

毎年開催している「つばきの里 森林の楽校」（佐賀・長崎）を中心に活動しており、大学生協の学生や職員と地元の方の協力が進んでいます。



地域の拠点づくりを目指す 「高田ハウス」

長年「清流の森 森林の楽校」を開催してきた兵庫県宍粟市一宮町・中坪地区において、空家である古民家をお借りし、活動の拠点としています。

活動の際の宿泊場所として、また、地域住民との恒常的な交流の場として活用して、4年が過ぎました。



間伐ネット & 間伐コンクール

JUON NETWORK は、2019 年度より「間伐・間伐材利用推進ネットワーク」の事務局となり、林野庁とも協力し、「間伐・間伐材利用コンクール」と「大学生への温暖化防止・森林保全の啓発活動」を推進しました。

20回を迎えた間伐コンクールと、STOP温暖化

間伐・間伐材利用 推進ネットワーク

全国森林組合連合会などの森林・林業の主な関係団体、国土緑化推進機構や NPO など 18 団体によって、2015 年に設立されました。林野庁のバックアップがあり、JUON NETWORK も当初より参加しています。

間伐・間伐材利用 コンクール

間伐や間伐材利用に関する様々な実践例やアイデア製品を普及することを目的に実施。今回は、20 回目の開催となることから、「継続的取組部門」も設けました。主催は、間伐・間伐材利用推進ネットワーク。

間伐・間伐材利用コンクールの開催

2019 年度は、全国から 41 件の応募があり、異業種連携等々、多様な製品・取組について、3 部門にわたり、11 団体を表彰しました。

受賞者の表彰式

2020 年 2 月 5 日、東京・イトーキイノベーションセンター SYNQA において開催。表彰式では、本郷浩二林野庁長官を始め、多くのご関係者の方にご参列いただきました。

受賞作品の展示

2020 年 2 月 3 日～ 28 日には ECOM 駿河台において、コンクール受賞者の取組紹介のパネル及び受賞作品等の展示を実施しました。



大学生への温暖化防止・森林保全の啓発活動

2019 年度の間伐・間伐材利用推進ネットワークの主な活動として、「大学生への温暖化防止・森林保全の啓発活動」を位置づけ、その推進を JUON NETWORK が担いました。

学園祭での啓発活動

「樹恩割り箸」を使用している学園祭での啓発活動推進のため、チラシの配布や学園祭パンフレットへの掲載を進めました。

大学生協への、「啓発卓上案内」の配布

各大学生協の食堂のテーブルなどに設置してもらうことを目的に、全大学生協（214 大学生協）に、約 5000 部を発送しました。

「樹恩割り箸」を活用しての啓発

割り箸の袋の通常の文言を啓発用に変更し、製造している 2ヶ所の福祉施設より各 5 万膳・合計 10 万膳を作成し、「樹恩割り箸」を使用している大学生協に優先的に納品。

「地球温暖化防止と森林保全」の学習会を開催

2019 年 12 月 20 日に、全国大学生協連学生委員会と協力しトライアル版として、林野庁の方を講師に、実施しました。学生の参加は、全国学生委員と東京ブロック学生事務局の 21 人となりました。



JUON NETWORKの概要と運営

ゼロから出発したJUON NETWORKは、設立から20年を越え、多くのボランティアや団体会員の皆さまのご尽力によって、安定した組織運営と財政を実現しています。

JUON NETWORKの概要

- ◆名称 認定特定非営利活動法人 JUON NETWORK
- ◆代表 会長 生源寺眞一 副会長 小林正美／毎田伸一
- ◆設立 1998年 4月27日 徳島県池田町（現・三好市）にて設立総会
1999年11月25日 特定非営利活動法人格を取得
2011年 6月 1日 認定特定非営利活動法人に認定
- ◆機関 最高議決機関＝総会 その他＝理事会（年3～4回）・常任理事会（年4回）
- ◆会員 個人会員409名・学生会員22名・家族会員17名・団体会員95団体（2019年度末現在）
- ◆会計 経常収益3,046万円－経常費用2,671万円 19年度経常増額＝375万円（2019年4月1日～2020年3月31日）
- ◆年度 4月1日～翌年3月31日

活 動 計 算 書

2019年4月1日から2020年3月31日まで
(単位：円)

科 目	2019年度
I 経常収益	
1 受取会費	8,338,000
2 受取寄付金	13,567,220
3 受取助成金等	2,600,000
4 事業収益	5,933,912
5 その他の収益	24,093
経常収益計	30,463,225
II 経常費用	
1. 事業費	
(1) 人件費	9,853,657
(2) その他経費	12,235,941
2. 管理費	
(1) 人件費	2,404,944
(2) その他経費	2,219,425
経常費用計	26,713,967
III 経常外収益	
経常外収益計	800
IV 経常外費用	
経常外費用計	0
当期正味財産増減額	3,750,058
前期繰越正味財産額	47,776,312
次期繰越正味財産額	51,526,370

理事・監事

2020年度 役員一覧

会長

生源寺眞一（福島大学教授）

副会長

小林 正美（有限会社樹庵代表取締役）

毎田 伸一（全国大学生生活協同組合連合会専務理事）

常任理事

大本 隆史（日本コープ共済生活協同組合連合会執行役員）

皆川 淳哉（全国大学生生活協同組合連合会理事・学生委員）

澤登 浩二（澤登農園）

理事

浅沼 由紀（関西中国地域ブロック世話人）

足本 裕子（一般社団法人文化遺産を未来につなぐ森づくり会議事務局長）

鹿住 貴之（認定特定非営利活動法人 JUON NETWORK 事務局長）

五島 章夫（社会福祉法人池田博愛会セルフ箸蔵施設長）

佐藤 敦紀（大学生協事業連合総合企画部長）

佐藤 敬一（東京農工大学准教授）

佐藤 宗治（鹿児島大学名誉教授）

重元 勝（コーディネイト研究所代表）

田中 康治（宮城教育大学生生活協同組合専務理事）

玉中 健太（株式会社山弘社員）

長本 朝子（香川ベンチの会事務局長）

藤田 和則（富山大学生生活協同組合専務理事スタッフ）

村上 次郎（生活協同組合コープみらい常務執行役員・東京都本部長）

渡部 孝二（特定非営利活動法人あたご理事長）

監事

岡坂 充容（大学生協事業連合常勤監事）

川上仙太郎（社会福祉法人起生会評議員）

柳田 章（全国大学生生活協同組合連合会管理部長）

会誌(5月、8月、11月、2月発行)



割り箸ポスター



JUON NETWORKへの支援

JUON NETWORK がより充実した活動を展開するために、一層の活動資金を必要としています。今後も、JUON NETWORK への物心両面のご支援をお願いいたします。

団体会員の皆さま (2020年4月1日現在/順不同)

一般企業 (13)

- (株) アイアンドアイサービス
- (株) アテリーナ
- (株) 光陽メディア
- (株) コープリビングサービス
- (株) 秀英
- (株) 山城もくもく
- (株) ラポランド
- 共栄火災海上保険 (株)
- 新日本管財 (株)
- 太陽生命保険 (株)
- グッドウィル・サークル友の会
- 北陸コカ・コーラボトリング (株)
- ヤマキ醸造 (株)
- (有) 樹庵

- NPO 法人 日本の竹ファンクラブ
- (一社) 西土佐環境・文化センター
- 四万十楽舎
- (一社) 全国直販流通協会
- おくたま海沢ふれあい農園
- 沢登農園

行政・組合など (8)

- 三好市役所
- 南伊勢町水産農林課
- 吉野川 (三好) 流域林業活性化センター
- 全国森林組合連合会
- 三好西部森林組合
- NECグループ労働組合連合会
- 全国大学生協連 事務局労働組合
- 日本労働者協同組合連合会

社会福祉法人など (7)

- (社福) 池田博愛会セルフ審蔵
- セルフ審蔵保護者会
- (社福) 池田博愛会審蔵山荘
- (社福) 江南愛の家
- (社福) 三和会 エルシーヌ藤ヶ丘
- (社福) 山の子会 山の子の家
- (社福) ワークサポートやまなみ

地域生協など (4)

- コープみらい
- とくしま生協
- 東京都生活協同組合連合会
- 日本生活協同組合連合会

NPO法人など (8)

- NPO 法人 あたご
- NPO 法人 グリーンツーリズムとやま
- NPO 法人 トチギ環境未来基地

大学生協 (56)

- 岩手大学生協
- 山形大学生協
- 東北大学生協
- 東北学院大学生協
- 宮城教育大学生協
- 尚絅学院大学生協
- 福島大学生協
- 麻布大学生協
- 桜美林学園生協
- 慶應義塾生協
- 芝浦工業大学生協
- 電気通信大学生協
- 東京学芸大学生協
- 東京工芸大学生協
- 東京農工大学生協
- 一橋大学生協
- 明治薬科大学生協
- 和光学園生協
- 早稲田大学生協
- 大東文化学園生協
- 埼玉大学生協
- 横浜国立大学生協
- 茨城大学生協
- 宇都宮大学生協
- 群馬大学生協
- 高崎経済大学生協
- 新潟大学生協
- 東京インターカレッジコープ
- 名古屋大学生協
- 愛知大学生協
- 金沢大学生協
- 富山大学生協
- 富山県立大学生協
- 京都大学生協

- 大阪大学生協
- 近畿大学生協
- 神戸大学生協
- 関西学院大学生協
- 甲南大学生協
- 神戸市外国語大学生協
- 兵庫県立大学生協
- 岡山大学生協
- 鳥取大学生協
- 広島大学生協
- 愛媛大学生協
- 松山大学生協
- 徳島大学生協
- 大学生協 中国・四国事業連合
- 北九州市立大学生協
- 長崎大学生協
- 長崎県立大学佐世保校生協
- 宮崎大学生協
- 大学生協事業連合
- 全国大学生協共済生活協同組合連合会
- 全国大学生生活協同組合連合会

ご支援いただき、ありがとうございます!

みなさんの会費や寄付が、JUON NETWORKの活動を支えています

JUON NETWORKの活動は、みなさんからの会費や寄付で支えられています。趣旨や活動に賛同し、ご支援いただける方のご入会やご寄付を募集しています。なお、JUON NETWORKは認定NPO法人であり、2,000円を超える寄付は、寄付金控除の対象となります。

○会費 (年会費)

個人会員	一般	4,000円
	学生	2,000円
	家族	2,000円
団体会員	一口	30,000円

- 銀行振込
 - りそな銀行 新都心営業部 普通
 - 口座番号: 0528652
 - 名義: JUON NETWORK
 - ゆうちょ銀行 〇一九 当座
 - 口座番号: 0026902
 - 口座名: JUON NETWORK
- 郵便振替
 - 口座番号: 00110-9-26902
 - 口座名: JUON NETWORK

【クレジット決済】

国際ブランド (VISA、MASTER) のいずれかのロゴがついていれば、ご利用可能です。



認定NPO法人 JUON NETWORK
〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22 大学生協杉並会館内

TEL : 03-5307-1102 / FAX : 03-5307-1091
E-mail : juon-office@univcoop.or.jp / URL : http://juon.or.jp